

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定による

教育委員会の点検・評価

(令和7年度対象)

令和8年7月

富津市教育委員会

目 次

I はじめに

1	本市の点検・評価の概要	1
2	教育委員の活動状況	2

II 点検・評価

1	学校教育の充実	3
	（1）教育総務課の取組	6
	（2）学校教育課の取組	8
	（3）教育センターの取組	10
	外部評価者による評価	14
2	生涯学習の充実	16
	（1）生涯学習課の取組	17
	（2）公民館等の取組	23
	ア 中央公民館	23
	イ 富津公民館・埋立記念館	26
	ウ 市民会館	29
	外部評価者による評価	32

I はじめに

1 本市の点検・評価の概要

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定により、毎年、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表するよう定められています。

また、同条第2項では点検・評価にあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされており、今般、令和7年度の点検・評価が終了しましたので報告します。

市民の皆様に、教育委員会が行っている日常の業務や課題を知っていただき、一層のご支援を賜りたいと考えています。

(2) 報告書の構成

令和6年2月に策定した『富津市教育施策（令和6年度～令和8年度）』をもとに、「学校教育の充実」と「生涯学習の充実」の2項目に分けて、それぞれ施策指標とそれに対する到達点を明示しながら、取組の実績と自己評価及び学識経験者2名の評価と意見を記載しました。

また、学識経験者の評価と意見は、分野ごとにまとめていただきました。

評価

A：事業の効果が現れている。

B：事業の効果が概ね現れている。（一部に問題がある。）

C：事業の効果があまり現れていない。（多くの問題がある。）

富津市教育委員会

令和8年3月31日現在

職 名	氏 名
教 育 長	山下 秋 一 郎
教育長職務代理者	今 関 真 弓
委 員	池 田 亨
委 員	嶋 野 和 正
委 員	藤 平 慶 子

2 教育委員の活動状況

(1) 定例会議等・・・毎月開催、必要に応じて臨時に開催

- 4月25日 ・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて 等
- 5月21日 ・令和7年度富津市一般会計予算6月補正予算（第1号）案について 等
- 6月19日 ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱又は任命について 等
- 7月31日 ・令和6年度教育委員会の点検・評価に係る報告書の作成並びに議会への提出及び公表について 等
- 8月21日 ・令和7年度富津市一般会計補正予算（第3号）案のうち教育に関する事務に係る部分について 等
- 9月25日 ・佐貫小学校と大貫小学校の再配置に係る「校歌」「校章」について 等
- 10月15日 ・富津市部活動地域移行協議会設置要綱の一部を改正する告示について 等
- 11月13日 ・令和7年度富津市一般会計補正予算（第5号）案のうち教育に関する事務に係る部分について 等
- 12月18日 ・富津市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 1月22日 ・令和7年度富津市教育委員会被表彰候補者の追加について 等
- 2月20日 ・令和7年度富津市一般会計補正予算（第9号）案のうち教育に関する事務に係る部分について 等
- 3月25日 ・令和8年度富津市学校教育の指針を定めることについて 等

(2) 教育委員会協議会・・・教育委員会の検討、協議の場合

- 5月21日 ・青堀小学校校舎等改築事業基本設計の概要について
- 6月19日 ・教育委員会の点検・評価（令和6年度対象）について

(3) 総合教育会議・・・市長、教育委員会により構成され、大綱の策定、教育を行うための諸条件の整備等、重点的に講ずべき施策等の協議・調整を行う。

- 12月18日 ・今後の学校教育に関する重点施策

(4) 教育長及び教育委員の研修等

- 6月30日 ・千葉県都市教育長協議会全体会、分科会並びに情報交換会
- 8月22日 ・君津支部教育研究集会全体会
- 10月 ・千葉県市町村教育委員会連絡協議会第1回教育長・教育委員研修会(オンライン)
- 1月30日 ・千葉県市町村教育委員会連絡協議会第2回教育長・教育委員研修会

(5) 学校訪問

- 7月8日 環小学校
- 9月22日 大佐和中学校

Ⅱ 点検・評価

1 学校教育の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 8 年度)	到達点 (令和 7 年度)
きめ細やかな指導のために配置する指導員等の人数	外国語指導助手 (ALT) 3 人	3 人	3 人
	自立支援指導員 5 人	1 1 人	6 人
	教育支援センター相談員 4 人 (旧適応指導相談員)	5 人	6 人
	指導補助教員 1 2 人	1 2 人	1 2 人
	英語指導員 3 人	3 人	3 人
	特別支援教育指導員 6 人	7 人	6 人
	読書支援員 4 人	6 人	4 人
	I C T 支援員 3 人	3 人	2 人
学力の向上 保護者アンケートによる「児童生徒が確かな学力を身に付けるための取組」に対する保護者の肯定的な評価の割合	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 8 年度)	到達点 (令和 7 年度)
	8 6 . 2 %	9 2 . 0 %	8 6 . 7 %
読書活動の推進 読書が好きな児童生徒の割合	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 8 年度)	到達点 (令和 7 年度)
	7 7 . 7 %	8 0 . 0 %	7 6 . 0 %

富津市の環境や風土を 生かした学習の推進	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
自分の地域を肯定的に 捉えられる児童生徒の 割合	88.3%	90.0%	92.2%
自分の地域の良さが回 答できる児童生徒の割 合	65.8%	75.0%	69.2%
児童生徒の健康増進	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
肥満傾向の児童の割合	15.0%	11.0%以下	13.5%
肥満傾向の生徒の割合	12.9%	10.0%以下	15.0%
歯垢が付着している児 童生徒の割合	17.3%	15.0%以下	20.7%
学校を卒業した後も自 主的に運動やスポーツ に取り組むたいと考 える児童生徒の割合	82.2%	90.0%	84.8%

※現状値（令和5年度）は富津市教育施策または令和6年度教育委員会の点検・評価（令和5年度対象）における到達点（令和5年度）を使用している。

◎教育部全体での取組（教育かわら版の発行）

教育委員会が日頃行っている業務等について市民に周知し、理解いただくために教育かわら版を発行している。

今年度で通刊67号を迎え、各刊市ホームページに掲載した。

7月発行の65号は、運動会の報告や新調理場完成記念の特別献立の紹介、スポーツイベント、ニュース、読書の推進、11月発行の66号は、内裏塚古墳群史跡追加指定記念講演会の案内、大佐和中学校屋内運動場の改築状況、ノロウィルスによる食中毒の注意喚起等、2月発行の67号は、就学援助や育英資金制度について、大佐和中学校屋内運動場の完成、デジタルミュージアムのオープン等、多種多様な内容の紹介に努めている。



65号 (令和7年7月発行)



66 号 (令和 7 年 11 月発行)



67号 (令和8年2月発行)

(1) 教育総務課の取組

1 主な事業と決算見込額

・学校教育振興費（14,698,438円）	理科教育振興備品	1,870,000円
	教材備品	2,237,791円
	図書備品	3,284,348円
	講師謝礼	105,000円 等
・育英資金貸付金事業（4,800,000円）		
・奨学金返還支援事業（執行なし）		
・大佐和中学校屋内運動場改築事業（841,731,574円）		
	屋内運動場改築工事監理業務委託	12,212,200円
	（R6-R7 継続費 契約金額 15,400,000円）	
	旧屋内運動場解体工事設計業務委託	5,280,000円
	通信ネットワーク整備業務委託	3,685,000円
	屋内運動場改築工事	657,589,504円
	（R6-R7 継続費 契約金額 687,280,000円）	
	屋内運動場改築電気設備工事	125,400,000円
	屋内運動場改築機械設備工事	34,776,500円 等
・青堀小学校校舎改築事業（21,279,046円）		
	基本・実施設計業務委託	19,787,900円
	（R6-R8 継続費 契約金額 228,184,000円）	
	浸透調査業務委託	693,000円 等
・学校施設整備事業（54,109,241円）		
	飯野小学校防火戸・防火シャッター改修工事設計業務委託	3,080,000円
	天羽小学校消防設備改修工事	33,000,000円
	富津中学校グラウンド排水調査・設計業務委託	4,180,000円 等

2 令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

- ・学校教育振興費

予算の適正な執行管理に努め、国の補助制度も活用し、各学校の教材等の充実を図った。

学校再配置により閉校する佐貫小・環小の教材や備品等については、統合先の学校に引継ぐため移管作業を実施した。
- ・育英資金貸付金事業

令和5年度の貸与上限額引上げ以降、利用者が増加している。

令和7年度は6件の新規申込があり、貸付を開始した。（令和7年度末現在11名貸付中）
- ・奨学金返還支援事業

施行2年目となり、広報誌やHPのほか、企業が集まる場での説明や企業訪問など周知に努めたが、申請には至らなかった。
- ・大佐和中学校屋内運動場改築事業

工事の進捗管理に努め、令和8年2月から供用開始、旧屋内運動場については、解体に係る実施設計が完了した。

使用を中止していた旧屋内運動場の機能が回復したことで、生徒の体育授業や学校行事、部活動等における教育環境の改善が図られた。

・青堀小学校校舎改築事業

令和6年度に完了した基本設計を踏まえ、校舎及び屋内運動場の改築に向けた実施設計を進めた。また、事業予定地の造成計画に必要な浸透調査を実施し、開発許可手続きや造成・外構設計に必要な検討を行った。

実施設計に当たっては、児童が安全・安心に学校生活を送ることができる教育環境の整備を基本とし、校舎、屋内運動場、外構、造成計画等について、学校運営における動線や施設の配置、維持管理などを考慮しながら、関係機関との協議を進めた。

・学校施設整備事業

天羽小学校消防設備改修工事を実施し、消防設備の適正な機能確保を図った。

また、飯野小学校防火戸・防火シャッター改修工事設計業務委託及び富津中学校グラウンド排水調査・設計業務委託を実施し、防火設備の改修やグラウンド排水機能の改善に向け準備を進めた。

○今後の取組の方向性（改善策等）

・学校再配置により閉校した2校に残った備品等の有効活用を図るため、他校の他、市役所や自治会等への移管作業を進め、不要品については適正に処分する。

・奨学金返還支援事業に関しては、県が同等の施策を施行したことから、事業の継続について検討する。

・大佐和中学校屋内運動場改築事業については、学校運営への影響や生徒の安全確保に十分配慮しながら、旧屋内運動場の解体工事を実施し、適切に工事の進捗管理を行う。

・青堀小学校校舎改築事業については、実施設計の内容を踏まえ、開発許可手続きや造成工事、校舎及び屋内運動場の建設に向けた関係機関との協議を進めるとともに、事業費や工程の精査を行い、計画的な事業実施に努める。

・他の学校施設についても、富津市教育施策に掲げる安全・安心な教育環境づくりに努めるとともに、「富津市小・中学校再配置計画」、「富津市学校施設整備基本計画」に基づき、施設の老朽化対策及び教育の資質向上を図るため計画的な整備を実施する。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

育英資金貸付金事業においては、貸与上限額の引上げ以降、多くの反響があり、現在も申請が増加傾向にあること、大佐和中学校屋内運動場改築事業や青堀小学校校舎改築事業をはじめとする学校施設に係る事業は概ね計画通りに進めることができたが、一方で奨学金返還支援事業では、周知に努めたが申請には至っていないこと、各校の備品や教育振興における教材の充足が学校要望に対して満足な水準に至っていないこと、学校施設についても、校舎等施設の老朽化対策に課題があることや、設備面における学校要望に対し十分な対策が図れていないことなどを総合的に勘案し、自己評価は、「B」とした。

(2) 学校教育課の取組	
1	主な事業と決算見込額 ・特別支援教育指導員配置事業（13,773,076円） ・学校給食管理運営事業（200,733,829円） ・給食材料費（165,603,402円） ・給食施設整備事業（297,336,630円） ・食育推進事業（1,439,997円） 食育推進事業費 37,288円 小・中学校保健管理費 1,402,709円（生活習慣病予防検診費） ・学校における歯科保健指導事業（2,180円）（歯科指導物品購入） ・市内小学校フッ化物洗口推進事業費（134,877円） ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業（17,111,315円） ・特別支援教育児童生徒就学援助事業（2,773,687円）
2	令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等） ・特別支援教育指導員配置事業 通常学級で過ごす特別な支援を必要とする児童生徒のために、6人の指導員を雇用し、延べ6校に派遣した。 ・学校給食管理運営事業 富津市学校給食共同調理場を供用開始し、調理等業務委託及び受配校への配送等業務を、民間会社に委託し実施した。 また、中学生全学年及び第3子以降の学校給食費の無償化を実施した。 ・給食事業 年間194日の給食を実施し、児童生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。 給食材料価格が高騰する中、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者の負担を増加させることなく、質・量を維持した給食を提供できるよう給食材料費予算を増額している。 また、令和7年9月からアレルギー対応除去食の提供を開始した。 ・給食施設整備事業 令和7年4月に富津市学校給食共同調理場を供用開始し、旧大貫・天羽及び青堀小学校旧調理場解体工事を実施した。また、富津小学校及び飯野小学校旧調理場解体工事に向け、設計業務を実施した。 ・食育推進事業 栄養教諭を食育指導員として、各小・中学校において食育指導（授業の実施・生活習慣病等の改善を要する児童生徒及びその保護者に対する個別相談等）を実施した。（食育指導員派遣回数 延べ70回） また、健康づくり課と連携し、令和2年度から中学2年生に実施しているHbA1c検査の結果が正常高値かつ肥満度20以上であった生徒のうち、保護者が希望した生徒を対象に、各中学校において、保健師・栄養士等による2型糖尿病発症予防指導を個別に実施した。（対象

者45名中28名に実施)

- ・学校における歯科保健指導事業

健康づくり課と連携し、歯科衛生士により小学1年生を中心に歯科保健指導(染め出し等)を実施した。(小学校8校、中学校1校)

- ・市内小学校におけるフッ化物洗口推進事業

令和6年度より市内小学校児童のう歯予防の一環として、佐貫小学校全校児童(希望者)に向けてフッ化物洗口を開始、令和7年度には大貫小学校と吉野小学校でも全校児童(希望者)にフッ化物洗口を実施した。

- ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業

要保護・準要保護児童生徒として242人(前年度比-22人)を認定し、学用品費・給食費・通学費・医療費等の援助を行った。

- ・特別支援教育児童生徒就学援助事業

特別支援学級在籍の児童生徒75人(前年度比-9人)を認定し、学用品費・給食費等の援助を行った。

- ・学校再配置事業

大貫小学校と佐貫小学校、天羽小学校と環小学校を統合することとし、検討委員会(代表部会・PTA等部会・学校教職員部会)を組織して協議を進めるとともに、事業の進捗等をまとめた「再配置だより」を随時発行し、各部会で協議された内容等について公表するなど、学校再配置に向けた各種準備を進め、令和8年4月から大佐和小学校と天羽小学校が新たにスタートした。

○今後の取組の方向性(改善策等)

- ・特別支援教育指導員配置事業

今後も各学校のニーズに応じた増員に向け、更なる充実を図る。

- ・学校給食管理運営事業

学校給食共同調理場の安定した運用のため、施設及び厨房機器等の必要な維持管理等を実施する。

給食費については、令和8年度から国による小学校の学校給食費の抜本的負担軽減(給食無償化)の実施により、小中学校の給食無償化が実現したが、令和7年度以前の給食費滞納額が一部残っているため、縮減・解消を目指す。

- ・給食事業

安全・安心な給食の安定した継続のため、給食従事者研修の充実、食材の安全確保に努めるとともに、給食に使用する食材の地産地消の取組を推進していく。

- ・給食施設整備事業

学校給食共同調理場の供用開始に伴い、富津小学校及び飯野小学校旧調理場解体工事を実施する。

- ・食育推進事業

児童生徒及びその保護者が、生涯健康な生活を送ることができる環境を整えることを目的に、継続した指導が実施できるよう検討する。

・学校における歯科保健指導事業 令和８年度中に市内全小学校にてフッ化物洗口を実施し、う歯の予防に努めるなど、学校歯科医や歯科衛生士と連携して指導を実施していく。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業 経済的な理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対し、引き続き就学に必要な援助を実施し、経済的負担の軽減を図る。 ・学校再配置事業 閉校となった旧佐貫小・旧環小の所管替えに伴い、利活用を検討する際の妨げにならないよう、校内に残っている卒業制作や備品等の整理、不用品の適正な処分を行うなど、引き渡しに向けて準備を進める。
教育委員会の自己評価 B
○評価の理由 給食関連事業や学校再配置事業の進捗については、概ね計画通り進められている。 しかしながら、特別支援教育指導員配置事業については、目標値に対して不足していること、歯科保健指導事業については、フッ化物洗口が全校実施に至っていないこと、食育推進事業では、肥満傾向の児童生徒の割合が目標値に対して達していないことなどから、総合的に勘案し、自己評価は、「B」とした。

(3) 教育センターの取組
1 主な事業と決算見込額 ・学力向上推進事業（22,962,529円） ・教職員研修推進事業（81,272円） ・外国語指導助手配置事業（13,384,800円） ・ICT教育推進事業（53,480,105円） 等
2 令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等） ・学力向上推進事業 【授業でカエル】 「授業でカエル」テーマとして学校教育の大きな柱を決め、学力向上はもちろん、学校が抱える様々な課題を「授業を充実させること」によって解決していこうというメッセージを学校と共有しながら取り組んできた。 保護者アンケートによる「確かな学力を身につけるための取組」に対する肯定的な評価は、86.7%であり、昨年度（85.2%）より1.5%上昇した。 【人の配置（特に「指導補助教員」）について】 きめ細かな指導のために配置する指導員等については、約半数の職種において目標値以上の人数を配置できている。 市内全小中学校に、個の課題に応じたきめ細かな指導ができる体制を整えるため、指導補助教員12名（小学校9名・中学校3名）を配置し、「①授業中の児童生徒への学習支援」「②

小学校における放課後学習教室での指導」を行っており、②のみの学校が4校あるが、全ての学校から①の要望があがっている。

また、全ての小学校で、主に低学年を中心とした希望者に放課後学習教室を実施し、児童の学習のつまずきや困り感の解消と学習意欲の向上を図った。

【「読むこと・書くこと」について】

目標値を定め、その達成に向けて各学校で、読書量を増やすための工夫や、自分の考えをしっかりと持って書かせるといった授業改善など、対策を講じて取り組んでいる。

令和7年度末の結果は、以下のとおりであった。

- ・「読むこと」について、『読書が好き、どちらかという好き』と答えた児童生徒の割合 76.0%（昨年度比－2.7%）
- ・「1日16分以上読書をする児童の割合」25%（昨年度比－2%）
「全く読書をしていない生徒の割合」59%（昨年度比±0%）
- ・『自分の考えを書きなさい』と発問されたときに自分の考えをまとめて書くことができる児童生徒の割合」84.7%（昨年度比－2%）

読書離れは全国的な傾向ではあるものの、読書が好きな児童生徒を増やしていくために、一層の創意工夫と継続的な取組が必要である。

●読書が好きな児童生徒の割合（全国学力学習状況調査より）

令和3年との比較 小学校6年・中学校3年

市：小学校 －8% 中学校 －3.0%

県：小学校 －12.5% 中学校 －13.4%

【地域学習】

「富津市の環境や風土を生かした学習の推進」に関連し、各校の計画において地域学習が進んでおり、生涯学習課や公民館とも連携し、各校が地域学習を進める上での必要な情報が伝わりやすい環境整備に努めた。

「自分の地域を肯定的に捉えられる児童生徒の割合」は、92.2%であり、昨年度より1.3%の伸びがあった。

「自分の住んでいる地域や富津市の良さは何か」の問いについては、回答できた者は69.2%であり、昨年度より4.1%の伸びがあった。

今後も、自分の住んでいる地域や富津市の良さを語ることができる児童生徒の育成を目指し、学習を深めていきたい。

また、地域学習の発展、活動のゴールとして「子ども議会」を位置付け、令和8年度の実施に向けて、教育課程に組み込めるよう準備をしてきた。

・教職員研修推進事業

夏季教職員研修会は、国語（読むこと書くこと）、算数・数学、授業づくり・集団づくり、生徒指導、教育相談、特別支援教育、情報教育、富津市を学ぶなど10講座を開設した。

本研修会は希望制で、原則、全教職員が1講座以上の受講としている。若年層の教員が増えているため、指導力向上に向けて、授業づくりの基本的な内容や、本市の課題でもある不登校支援に関する内容など、受講者のニーズを意識したものとなるよう努めた。

- ・外国語指導助手配置事業

3名のALTを全小中学校が外国語の授業で活用できるよう配置した。

また、英語教育推進事業では、3名の英語指導員を小学校に配置し、外国語科・外国語活動において、ALTとともに担任の指導を補助し、授業の充実を図った。（青堀小学校・大貫小学校は、専科教員が勤務しているため、指導員の配置はしていない。）

また、ALT ミーティングに参加したほか、英語指導員会議を年間4回開催するなど、指導現場の課題を共有しながら随時改善を図った。

- ・ICT教育推進事業

1人1台の情報端末を有効活用した学習指導を充実させるため、情報主任会議を開催し、好事例の共有や情報提供に努めた。

また、夏季教職員研修会において、本市導入ソフトウェアに関する実践研修を行った。

ICT支援員については、全小中学校に対し、月に5回程度訪問し、授業支援やICT環境整備支援を行った。

- ・富津市通学路安全対策協議会

児童生徒の登下校時における通学路の安全確保に向けた取組を関係機関（富津警察署、国・県道路関係者及び市関係部署、PTA代表等）が連携して推進し、各学校から報告のあった通学路の危険箇所の合同点検を行い、改善策等を協議し、対策を実施した。

- ・その他（生徒指導・教育相談体制等）

自立支援指導員を1名増員し、6名を小学校2校・中学校3校に、また、教育支援センター相談員を1名増員し、6名をさわやか教室（中央公民館）に配置した。

不登校児童が増加する中、本市で最も児童数の多い青堀小に校内教育支援センターを継続開設し、自立支援指導員2名を配置し、昨年度より配置日数と時間を増やした。

不登校率は、小学校では令和6年度2.8%から令和7年度3.4%に、中学校では令和6年度8.9%から令和7年度10.4%に、全体では、令和6年度5.0%から令和7年度5.9%になった。

また、不登校、発達障害などに関する悩みについて、心療内科精神科の専門医による相談を実施し、13件の相談があった（昨年度比－2件）。

県配置のスクールカウンセラーは、全小中学校に配置され、相談件数は延べ1,757件（昨年度比－219件）であり、教育センターへの電話及び来所による相談は15件（昨年度比＋1件）であった。

教育センターでの「いじめ相談メール」については、QRコード付きのカードを全児童生徒に配布し、友人関係や学校生活についての悩みがある場合の相談方法について周知した。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・学力向上推進事業

「授業でカエル」をテーマに、市が抱える様々な課題に対して、教職員が主体的に、「授業改善」を通して取り組めるようにしていく。具体的には、令和7年度末に作成した『授業でカエル』チェックリストを活用し、授業改善の日常化を図る。

市内の５割以上の児童生徒が在籍する青堀小、富津中を「授業でカエル」研究校に指定し、指導補助教員を増員配置し、学力向上を推進する。

「富津市の環境や風土を生かした学習の推進」については、子ども達が富津市の魅力に気づくことができるよう、教職員が地域学習に取り組みやすい環境を整備するために、関係課と連携しながら情報発信に努める。

また、富津市の未来を自分事として関心を持てるよう、令和８年７月に「子ども議会」を開催する。

- ・教職員研修推進事業

若年層教員が増加しているため、ニーズに合った研修の充実に努め、教員としての指導力と専門性の向上を図る。

- ・ICT教育推進事業

引き続き学力向上に対して有効なICTの活用を推進するとともに、令和８年９月の端末更新がスムーズに進むように支援をしていく。

また、ネットモラル等のデジタル社会に適切に関わる力の育成を目指し、情報の提供を続け、プログラミング教育については、市ICTアドバイザーと連携しながら進めていく。

- ・その他

上記「授業でカエル」のほか、「あいさつでつながる」を本市学校教育の重点取組のとして設定し、あいさつの輪を学級、学校、地域へ広げる取組を推進する。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

富津市教育施策の目標と到達点から判断すると、関連する目標のうち到達点（令和７年度）が現状値（令和５年度）を下回った項目が５項目中１項目（読書が好きな児童生徒の割合）あるが、昨年度より１％以上の伸びが見られる項目も３項目（保護者アンケートによる「確かな学力を身につけるための取組」に対する肯定的な評価・自分の地域を肯定的にとらえられる児童生徒の割合・自分の地域の良さが回答できる児童生徒の割合）あり、取組に対する一定の成果は表れていると考え、自己評価を「Ｂ」とした。

外部評価者による評価

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

奨学金返還支援事業については、執行なしとのことでしたが、有用な事業であると確信していますので、引き続き周知に努めるとともに、申請に至らないその他の原因の究明にも心を砕いていただければと思います。

各学校施設の改築・解体等の事業が粛々と進められていることについて敬意を表します。同時に、現在改築等の大規模修繕に該当していない施設の耐用年数の超過、老朽化についても中長期的な改築・修繕の方向性、計画を示していく必要があるように思います。

小中学校の給食無償化は、保護者の負担軽減、ひいては少子化対策にも遠くつながるものと評価しております。しかしながら、昨今の材料費等の高騰により、給食の内容そのものが以前に比べ、貧弱になってきていると学校関係者から伺いました。家庭に問題を抱える児童生徒においては、給食が栄養摂取の源になるという報道も目にします。現在も給食材料費予算の増額に取り組んでおられるとのことですが、質・量の確保に向け、今後も引き続き努力をお願いしたいと思います。

また、アレルギー対応除去食の提供が始まったとのことで、教職員の負担・責任が軽減され、より安全で、児童生徒にとっても差の少ない給食が実施されていることに喜びを感じます。

フッ化物洗口について、令和8年度には市内全小学校で実施予定とのことで、今後の事業継続の必要性について、う歯予防の効果、効果持続期間の検証等を進めていただきたいと思います。

なお、全校児童に向けた実施とのことですが、小学校低学年の乳歯が残っている児童に対する効果、実施時期については疑問が残りました。

「授業でカエル」のわかりやすいテーマを掲げ、市内全教職員の意識向上、統一を狙う試みはよいと思います。ただ、若い年齢層の教職員の増加や学校の小規模化による在籍教職員数の減少もあり、主体性や校内だけで授業の質向上を図るのは自ずと限界があるかと思います。以前は盛んに行われていた異校間での優れた授業実践の参観や交流、指導案の参照などに再びスポットを当ててみるのはいかがでしょうか。教育センターのハブとしての機能充実に期待します。

教育センターがこれだけ数々の対策、対応を実施していながらも、不登校児童生徒数がここまですべて増加していることに危機感を感じました。個別の事案があり、各学校の取組・努力も含め、なかなか正解が見えない職員の苦悩も感じます。諦めることなく、今後も粘り強く取り組んでいてほしいと強く願います。

「子ども議会」の開催、「あいさつでつながる」の重点取組等新しい取組の成果にも期待しています。

令和7年度は「富津市教育施策（令和6年度～令和8年度）」の2年目となり、教育委員会としては各課等のそれぞれの事業が目標達成に向け取り組まれたことと思います。

まず、教育総務課の取組ですが、利用者が増加した育英資金貸付事業をはじめ各事業とも順調に進められていると思います。育英資金貸付事業は申込の増加、学校施設の老朽化に伴う対応などでは大佐和中学校屋内運動場の改築が完了し、支障をきたしていた体育の授業や部活動等の改善が図られ、新しい施設での新たな取組も進むのではと思います。

また、各学校の消防設備などの点検等は確実に実施し、不具合の解消等、児童・生徒の安全確保に努めていただきたいと思います。

青堀小学校の校舎改築事業も順調に進められているようですので、今後もより良い学校環境を整えられるようお願いします。

学校教育課では、学校再配置事業の大貫小学校と佐貫小学校、天羽小学校と環小学校が様々な意見が有る中、各学校関係者等と協議を重ね計画どおり令和8年4月から新学校としてスタート出来たことは評価されます。統合後の児童・生徒の不安等のケアやスクールバスの運行上の問題点等注視していただければと思います。また、富津市学校給食共同調理場も供用開始され、安全安心な給食事業の確保や健全な食育推進に努めていただきたいと思います。そして、生涯に渡り健康が求められる歯科保健指導については、より充実した指導を図ってもらえればと思います。

教育センターの取組ですが、児童・生徒の学力向上に向け、また、学校が抱える様々な問題点を解決すべく各種の取組が行われており、「授業でカエル」をテーマに打ち出し、学校と共有していることは、富津市の学校教育が何を目指しているのか、そのためにどうすれば良いのか、理解を得やすいと考えます。

学年単学級の学校が多く、教員が実戦を通して学ぶ機会が限られていますが、チェックリストを令和7年度末に作成し授業改善の日常化を図られるようです。教員確保が難しい中、きめ細やかな指導のため指導補助員の確保がなされていることは大変な苦勞があったと思慮されます。

また、放課後学習教室の実施など、協力してくださる方々には感謝の念に堪えません。今後も学校訪問などを通して各学校の先生方の意見を注視し、きめ細かな支援の確保に努めていただきたいと思います。

I C T教育は各学校で進められていますが、現在社会に於けるネットモラル等の弊害などについて更なる指導強化を図ってもらいたいと思います。

通学路の安全確保については、重要な課題ですが、完璧な安全確保は現状では残念ながら困難です。警察等や各種交通関係団体と連携を図り安全確保に取り組んでいただきたいと思います。

最後に教育かわら版についてですが、教育委員会の業務や各種取組内容を市民に伝えるための有効な手段であると考えます。発行に携わる担当者の方々は各自の業務が有る中、発行に向け苦慮されていることとは思いますが、市民の方に富津市の教育への関心や理解を深めて頂く重要な取組ですので、今後も続けていただきたいと思います。

2 生涯学習の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
学び、生かす生涯学習 の推進			
公民館・市民会館利用 者数	51,571人	60,000人	56,533人
人材バンク「まちの先 生」の利用件数	44件	55件	29件
図書利用冊数 (人口1人あたり)	4.46冊	5冊	5.59冊
図書館来館者数	187,000人	190,000人	175,032人
家庭教育への支援と連 携・協働の推進	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
放課後ルーム定員数	60人	65人	61人
青少年相談員連絡協議 会事業の参加者数	1,474人	2,000人	1,588人
文化財の保存・活用と 文化芸術活動の推進	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
指定・登録文化財の件数	90件	90件	90件
文化財来訪者数(市案内分)	514人	600人	763人
市民文化祭参観者数	9,140人	10,000人	8,268人
スポーツ・レクリエー ションの振興	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)	到達点 (令和7年度)
スポーツ関連の行事参 加者数	5,114人	6,000人	4,525人

※現状値(令和5年度)は富津市教育施策または令和6年度教育委員会の点検・評価(令和5年度対象)における到達点(令和5年度)のうち、直近の数値を使用している。

(1) 生涯学習課の取組

1 主な事業と決算見込額

- ・家庭教育支援事業（10,498円）
- ・生涯学習バス運営事業（8,807,409円）
- ・図書館関係事業（111,239,830円）
- ・ブックスタート事業（88,030円）
- ・青少年相談員活動事業（879,229円）
- ・青少年健全育成事業（443,520円）
- ・文化財保護事業（7,265,138円）
- ・内裏塚古墳群保存整備事業（248,279円）
- ・市内遺跡発掘調査事業（3,060,714円）
- ・民間開発発掘調査事業（0円）※事業なし
- ・富津市ふれあいスポーツフェスタ事業（1,261,316円）
- ・社会体育振興事業（4,053,570円）
- ・スポーツ少年団交流事業（194,738円）
- ・市体育施設管理運営事業（57,739,368円）

2 令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

・生涯学習推進事業等

市民の多様な学習を支援するため、人材バンク「まちの先生」による学習支援情報など生涯学習に関する機会や行事を掲載した「富津市生涯学習情報提供誌」を更新し、市役所・公民館等の窓口で希望者に配布したほか、市ホームページや「ちばりすネット（千葉県生涯学習情報提供システム）」に情報提供し、周知を図った。

・生涯学習バス運営事業

令和4年2月から2台体制の運行を開始し、市民の生涯学習活動が活発となったことも影響し、令和7年度は321回の運行・利用者8,224人と年々増加している。（前年度比+21回・+1,092人）。

・図書館関係事業

市立図書館の開館や電子図書館の開設など図書環境が充実したことにより、貸出冊数は213,846冊と増加が続いている。（前年度比+4,057冊）。

また、市立図書館については、開館時65,039冊だった蔵書数は、寄附金等を活用して蔵書整備を行い、92,454冊まで拡充した。

人口一人当たりの貸出冊数は、開館前の令和4年度0.84冊から、令和7年度末では5.59冊に増加している。

・ブックスタート事業

4か月児健診時に絵本を1冊贈り、赤ちゃんと保護者が絵本を介して心がふれ合う時間を持つきっかけを提供した。令和7年度は114人の赤ちゃんに絵本を贈った。

・青少年相談員活動事業

富津市青少年相談員連絡協議会及び各地区の連絡協議会で事業を実施し、多くの児童と保

護者が参加し親睦を深めた。

昨年度、君津亀山青少年自然の家で開催した地域のつどい君津地区大会は、木更津市にて開催予定であったが、荒天予報により事前中止となった。

旧金谷小学校から鋸山を舞台に開催された富津市あすをきずく青少年のつどい大会「チャレンジ・ウォーキングのこぎり山」には、小学生ら20名・相談員26名が参加した。

その他、各地区においてもドッチボール大会（富津地区）・ジャンボかるた大会（大佐和地区）・防災キャンプ（天羽地区）などの行事が開催された。

・青少年健全育成事業（子ども会活動事業）

君津亀山青少年自然の家で開催した子ども会ジュニアリーダー初級研修会をはじめ、飯野コミュニティセンターにて育成大会、飯野小学校にてサマーデイキャンプなど様々な行事を実施し、子ども同士や地域の大人たちとの交流によって子どもの健全な育成に貢献した。

・文化財保護事業

文化財周知板設置事業では、古塚古墳・亀塚古墳・稻荷山古墳の解説板の老朽化に伴い、付け替えを実施した。

文化財・文化財施設環境整備事業では、古墳等の草刈・樹木伐採、飯野陣屋土塁南側の土塁樹木伐採等を実施した。

鋸山日本遺産「候補地域」活用推進協議会事業では、鋸南町、地域事業者とともに地域活性化のための各事業を実施した。

令和7年度は、新たに鋸山の校外学習向け推奨ルートと解説動画を製作し、これらを掲載したチラシを県内外の教育委員会へ配布した。また、地域全体で日本遺産認定に向けての機運を高めることを目的に、鋸山オフィシャルサポーター制度を開始し、地域事業者が鋸山の日本遺産ストーリーを活かした地域活性化事業を実施した。令和8年3月末までに58事業者が鋸山オフィシャルサポーターとなった。これらの事業成果を踏まえ、日本遺産ストーリー、地域活性化計画の見直しを図り、令和8年3月に文化庁へ日本遺産認定を申請した。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の改修、発信器の装着、事業対象である高宕山周辺に生息するニホンザル個体群を対象に行動域の調査、指定地域の生息環境調査を実施した。

内裏塚古墳群、鋸山や富津岬の戦争遺構など市内の史跡見学会等の参加者は、763人（前年度比+20人）であった。

・内裏塚古墳群保存整備事業

令和7年9月18日に、内裏塚古墳群として国指定史跡になったことを記念して、令和7年11月22日に、富津公民館で記念講演会を開催し、300人以上の方が来場した。当日は、普段は見ることのできない出土遺物などの特別展示も実施した。加えて、懸垂幕を市役所庁舎正面玄関前に掲示し、国指定史跡になったことについて、市民等への周知を図った。

また、内裏塚古墳群を将来にわたって保存・継承・活用していくための指針となる「保存活用計画」を策定するため、令和7年10月、有識者9名からなる「富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会」を立ち上げ、策定委員会会議を開始した。本計画は令和9年度末までに策定予定である。

・市内遺跡発掘調査事業

5箇所の発掘調査を実施した。内訳は、個人住宅建設、小規模宅地造成に伴う発掘調査3箇所（飯野陣屋二の丸跡、亀塚遺跡、北笹塚遺跡9）、神社再建の擁壁工事に伴う絹稻荷塚古墳の発掘調査及び青木亀塚古墳（古墳としての価値づけを行うことを目的）。

・民間開発発掘調査事業

民間事業者による開発がなかったため、実施しなかった。

・社会体育振興事業

市民が積極的にスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりができるよう、スポーツ推進委員やスポーツ協会等と連携し、各種スポーツ大会やスポーツ教室を実施した。

第31回健康ウォークラリー大会 86人（前年度比+3人）

富津市長杯争奪少年野球大会 80人（前年度比-37人）

富津市教育長杯争奪少年サッカー大会 105人（前年度比-5人）

第43回F T S少年剣道大会 248人（前年度比-86人）

「県民の日」記念第42回グラウンド・ゴルフ大会 68人（前年度比-3人）

「県民の日」記念第42回バドミントン大会 132人（前年度比-22人）

君津地区スポーツ・レクリエーション祭富津公園歩け歩け大会 237人（前年度比-63人）

第2回F T Sボッチャ大会 26人（前年度比-4人）

第2回F T Sモルック大会 26人（前年度比+7人）

第31回F T Sグラウンド・ゴルフ大会 58人（前年度比+4人）

第44回F T S杯争奪少年野球大会 70人（前年度比-1人）

第13回ふれあいドッジビー大会 33人（前年度比-27人）

ニューススポーツチャレンジ 33人（前年度比+7人）

富津市教育長杯争奪少年野球新人大会 60人（前年度比-11人）

ふれあいスポーツフェスタ2025（降雨により途中中止）

君津地区スポーツ・レクリエーション祭（ボッチャ・モルック・グラウンド・ゴルフ） 17人（前年度比-19人 モルックとグラウンド・ゴルフは雨天中止）

第50回ママさんバレーボール大会 95人（2年ぶりの開催）

第42回市民ハイキング 68人（前年比-16人）

第55回元旦歩こう大会 306人（前年度比+23人）

第52回富津市元旦マラソン大会 142人（前年比+17人）

第55回新春バドミントン大会 162人（前年度比+17人）

第38回新春グラウンド・ゴルフ大会 75人（前年度比+1人）

スポーツ教室（毎週土曜日） 2,398人（前年度比+31人）

・市体育施設管理運営事業

公益財団法人富津市施設利用振興公社・ミズノ共同体を指定管理者として適正な運営に努め、市民サービスの向上を図った。

《令和7年度利用実績》

○総合社会体育館

メインアリーナ 914件・28,197人（前年度比+164件・+3,984人）

サブアリーナ	1,822件・12,604人（前年度比+87件・+765人）
トレーニングルーム	783件・974人（前年度比+156件・+218人）
会議室等	31件・358人（前年度比-2件・+100人）
○富津運動広場	90件・1,368人（前年度比+13件・+180人）
○新富運動広場	217件・15,176人（前年度比-3件・+1,702人）
○浅間山運動公園	
テニス	919件・4,229人（前年度比+36件・-309人）
フットサル	15件・191人（前年度比+4件・+79人）
野球	109件・4,425人（前年度比 +11件・+433人）

・小中学校体育施設開放事業

60団体6,362日 120,341人（延数）（前年度比+1団体・+101日・-153人）

令和8年3月31日で旧佐貫中学校体育施設が使用中止になることから、例年より4か月程度早い時期に学校体育施設利用に係る登録手続案内を行い、施設利用の適正な運用に向けて調整した。また、2月には旧佐貫小学校及び旧環小学校の体育施設利用団体に対し、今後の利用方法や維持管理の協力等について説明会を開催し、同意を得られた。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・生涯学習推進事業については、君津地域4市での推進大会への市民参加を促すとともに、生涯学習情報提供誌の発行や、「まちの先生」事業を継続して実施する。

- ・家庭教育指導員・支援員及び社会教育指導員による「放課後ルーム」や「学習サポート会」の活動を通じて、地域学校協働活動の推進を図り、空き教室等を利用した地域住民の「活動の場所」や「居場所づくり」を目指す。

- ・図書館関係事業では、よりよい図書館サービスを提供するため、図書館協議会の意見等を吸い上げながら、市立図書館を基幹館として、公民館図書室、移動図書館、学校等と連携し、図書施設の利用促進を図る。

- ・文化財保護事業については、各種開発から埋蔵文化財を守り、引き続き保護と継承に努め、保存と活用を図る。

また、開発により保存できない場合には、発掘調査による記録保存の策を講じる。

- ・史跡等公有地化整備事業では、内裏塚古墳群の公有地化及び内裏塚古墳群保存活用計画の策定を推進する。

- ・鋸山については、引き続き鋸南町、地域事業者らと共同し、日本遺産「候補地域」活用推進協議会で地域活性化のための各種事業を実施し、地域活性化計画を進める。

その他、文化財関係事業として、市内の文化財周知板の整備を進め、新設や老朽化に伴う更新のほか、指定物件以外でも重要性の高いものについては、地域団体等の協力を得て説明板を設置し、市民や来訪者への周知に努めるとともに、市のホームページの充実を図るなど、広報活動に努める。

- ・社会体育振興事業では、スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、各種スポーツイベント等に、より多くの参加が得られるよう内容や周知方法等を検討する。

また、身近な地域で生涯にわたってスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。

- ・小中学校体育施設開放事業では、市民が公平に利用できるよう各団体の利用を調整し、健康増進、スポーツの振興を図る。

○評価の理由

生涯学習推進事業では、人材バンク「まちの先生」の登録者数が減少しており、利用件数の増加は難しい状況であるが、生涯学習バス運営事業や図書館関係事業などでは概ね順調な進捗が図られている。なお、市立図書館は、11月に貸出冊数50万冊、12月に来館者数50万人を達成し、多くの方に利用されている。

文化財の保存・活用については、令和7年9月18日に内裏塚古墳群として国指定史跡となり、広報ふつつ11月号・市ホームページ・公式SNSで周知するとともに、記念講演会、市民ハイキングを開催するなど、古墳群の価値を多くの方へ伝えることができた。

また、鋸山の日本遺産認定に向け、地域活性化のための各事業を実施するとともに、前回のストーリーの見直し、持続的なにぎわいと活気のある地域づくりを将来像（ビジョン）に定め、そのビジョン実現のために6年間で取組む地域活性化計画を作成できた。

スポーツ・レクリエーションの振興においては、各種行事の開催ではふれあいスポーツフェスタ2025が降雨により途中で中止となっていることなどから、参加者数は減少しているが、小中学校体育施設の利用団体数や市体育施設の利用者数は増加している。

各指標における到達点では、すでに目標値を上回るもの、現状値を下回ったものとそれぞれあるが、上記のとおり各事業ともに一定の成果をあげていることから、自己評価は、「B」とした。

(2) 公民館等の取組

ア 中央公民館

1 主な事業と決算見込額

- ・中央公民館管理運営費 (16,100,739円)
- ・中央公民館学級・講座関係費 (543,381円)
- ・ふつつ検定事業 (163,726円)
- ・市民文化祭事業 (699,046円)

2 令和7年度の取組の概要と効果(成果・課題等)

- ・中央公民館管理運営

施設整備として多目的室ドア改修工事、第1会議室空調設備設置工事などを実施した。

- ・中央公民館学級・講座関係

市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全13の学級・講座(前年度比-1)を開講した。

新規の学級・講座として、「ふつつ学講座」、「3B体操を楽しもう!」、「地域学校協働活動支援」を実施し、学級・講座全体の開催回数は96回(前年度比+5回)、参加延人数1,438人(前年度比+259人)であった。

- ・ふつつ検定事業

富津市の歴史・文化・観光・自然などの魅力や施策などを学び、誇りと愛着の醸成を図ることを目的として、令和8年2月に中央公民館を会場に第2回ふつつ検定を実施した。

また、小中学生の受検機会拡充のため、希望する学校向けにふつつ検定出張版を実施した。
第2回ふつつ検定

受検者数: 80名(初級29名、中級26名、上級25名)

合格者数: 76名(初級28名、中級23名、上級25名)

ふつつ検定出張版

受検者数: 264名(富津小47名 飯野小49名 大貫小45名 佐貫小37名 天羽小86名)

合格者数: 246名(富津小45名 飯野小49名 大貫小36名 佐貫小35名 天羽小81名)

- ・市民文化祭事業

生涯学習活動の成果を発表し、親睦と融和を図り豊かな文化の向上と創造の心を養うことを目的として、文化祭参加者により組織される「富津市民文化祭実行委員会」の企画運営により、10月24日から10月26日の3日間、総合社会体育館・富津公民館(埋立記念館)・中央公民館・市民会館の4会場で開催した。

各会場で魅力ある行事を催し、出展・出演者数は1,702人(前回比△190人)、参観者は開催期間中全会場合計で8,268人(前回比△2,067人)となった。

※施策目標と到達点「公民館・市民会館利用者数」(3館共通)

到達点の利用者数が目標値を下回ったことについては、各種団体の催しやサークル活動などが高齢化や会員のなり手不足などにより縮小傾向であることが要因と考えられる。

今後も、各種団体への施設貸出、サークルへの活動支援などにより誰もが利用しやすい公

民館運営に取り組んでいく。

※施策目標と到達点「市民文化祭参観者数」

到達点の参観者数が目標値を下回ったことについては、雨天により屋外での催しが中止となったことなどが要因と考えられる。

今後も雨天の場合でも参観者が安心して楽しめる催しを企画するなど、実行委員会を中心に準備を進め、多くの市民等が相互に交流することで地域文化の普及・向上につなげる。

○今後の取組の方向性（改善策等）

・中央公民館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者の環境整備に努める。

・公民館学級・講座関係については、前年度に実施した来館者等アンケートの結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に、次年度に向け参加者にアンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。

・ふつつ検定事業については、回を重ねても一定の受検者を確保できるよう、問題の更新や新たな検定区分の検討を行い継続した事業展開を行うとともに、小中学校を対象に出張検定を引き続き実施する。

・市民文化祭事業については、出展・出演やメインテーマのインターネットによる申込みなど多くの方が参加しやすい環境の整備を引き続き実施する。

また、雨天の場合でも参観者が安心して楽しめる催しを企画するなど、実行委員会を中心に準備を進め、多くの市民等が相互に交流することで地域文化の普及・向上につなげる。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

中央公民館は建築後55年を経過し、老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。また、多目的室ドアの改修や第1会議室へ個別空調機を設置し利用者の利便性向上を図った。

主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ったが、子どもを対象にする講座を除き、主たる参加者がシニア層中心の傾向となっており、参加者の年齢層拡大が課題である。

ふつつ検定事業については、第2回ふつつ検定を実施すると共に希望があった小学校において、ふつつ検定出張版を実施し受検機会拡充を図った。

アンケート結果からは「本検定の学習を通じて市のことが好きになった」人の割合が98%と目的達成に一定の効果があつた。

市民文化祭事業については、実行委員会を中心に各会場で魅力ある行事を開催し、多くの参観者につなげることができたが、雨天により屋外での催しが中止となったことなどから参観者数（前回比△2,067人）及び出演・出展者数は共に減少（前回比△190人）した。

以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

1	外国人のための日本語教室	23	123	在日外国人の方々が日本で生活するうえでの言葉の壁を少しでも減らし、地域の人とコミュニケーションをとるための一助とする。
2	レッツ・プログラミング!※	6	106	初心者向けの「スクラッチ」という言葉でプログラミングを自由に楽しく学ぶ。
3	大人のわらべ歌講座	4	62	声を出す・からだを動かす・頭で考えるに、「笑う」も加わったわらべ歌による心身のリフレッシュ講座。童謡・唱歌・わらべ歌の違いなど、奥深い魅力にふれる。
4	紙バンド手芸クラブ	9	120	古紙から再生される環境に優しい紙バンドを使い、趣味のバックや小物など実用品からアートまで幅広く作品を楽しむ。
5	いきいき健康体操教室	9	170	運動の日常化をめざし、四肢を動かし、心身の健康増進を図る。
6	シルバー生きがい学級	8	185	高齢者問題や社会問題等の学習を通して、知識の向上と参加者同士の交流を図り、生きがいのある生活の手助けとする。
7	はじめてみようフラダンス	9	137	フラダンスの基本のステップやハンドモーションを使って毎月ハワイミュージックや日本のポップスを楽しく踊る。フラは体幹を鍛えるのに最適な舞踊で、運動が苦手な方にも楽しいエクササイズを提供する。
8	わくわくペーパーアート 子ども折り紙教室※	4	135	和紙、折り紙の歴史を学びながら折る楽しさ、折ってから楽しめる折り紙づくりを行い、折り紙の世界を広げる。
9	親子でソーラーハウス工作教室※	1	31	太陽光パネル・蓄電池・LEDを組み合わせて、環境にやさしいソーラーハウスをつくる。親子で環境にできることを一緒に考えながら、発電の仕組みを学ぶ。
10	浴衣や絆 de eco パッチワーク教室	10	77	ecoをテーマにして、着なくなった浴衣や絆を材料として再利用し、タペストリーやバッグを作る。
11	ふつつ学講座	7	153	市内の名所や歴史的遺構の見学、体験的学習などにより、郷土の歴史、文化、産業などの理解を深める。
12	3B体操を楽しもう!	4	22	ボール、ベル、ベルターという3つの用具を使用し、年齢、性別、障がいの有無を問わず誰にでも楽しむことができる体操を通じ、心身共に健康な生活を送るきっかけとする。
13	地域学校協働活動支援	2	117	学校と地域資源・人材を結ぶため、学校が行う文化・芸術活動などに地域の支援人材を講師として派遣し、児童・生徒の学びと成長を支援するための活動を行う
	合 計	96	1,438	

イ 富津公民館・埋立記念館

1 主な事業と決算見込額

- ・富津公民館管理運営費（27,703,368円）
- ・富津公民館学級・講座関係費（337,185円）
- ・二十歳の集い事業（778,715円）
- ・富津埋立記念館管理運営費（4,003,064円）

2 令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

・富津公民館管理運営

施設整備として、地下タンクの配管修繕工事や浄化槽調整ブロワー交換修繕などを実施した。

・富津公民館学級・講座関係

市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全14の学級・講座（前年度比+3）を開講した。

新規の学級・講座として「チャレンジクッキング」「癒しの香りハーブ教室」「心もすっきりエクササイズ教室」「睡眠と健康の知恵袋講座」「ライフ&マネープラン基礎講座」「シニアスマホ教室～ 目指せデジタルシニア ～」を実施し、学級・講座全体の開催回数は73回（前年度比+2回）、参加延人員1,124人（前年度比△136人）であった。

・二十歳の集い事業

二十歳代表による実行委員会の企画運営により、富津公民館にて、令和8年1月11日（日）に二十歳の集いを開催した。

対象者353人（前年度比△14人）のうち出席者253人（前年度比△2人）で、出席率71.7%（前年度比+2.2%）であった。

記念行事として「ふつつ×世代ビンゴ！」を実施し、また、中学3年生時に二十歳の自分宛に書いた「二十歳への手紙」を後日郵送した。

・富津埋立記念館管理運営

来館者数は1,384人（前年度比△3,623人）であった。

前年度は、「内房総アートフェス」開催の影響などにより一時的に来館者数が増加したが、その反動もあり前年度に比べ減少となった。

施設整備として、浄化槽ばっ気ブロワー交換修繕やホール外周雨漏り修繕などを実施した。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・富津公民館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者への環境整備に努める。
- ・公民館学級・講座関係については、前年度に実施した来館者等アンケートの結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に、次年度に向け参加者にアンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。
- ・二十歳の集いについては、二十歳代表による実行委員会が「自ら作る二十歳の集い」として式典の企画運営を担い実施することとし、今後も実行委員会による企画運営を継続する。
- ・富津埋立記念館については、入館者数の増加に努める。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

富津公民館は建築後43年、埋立記念館は34年を経過し、老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。

主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ったが、子どもを対象にする講座を除き、主たる参加者がシニア層中心の傾向となっており、参加者の年齢層拡大が課題である。

二十歳の集い事業については、二十歳代表者による実行委員を中心に企画・運営を行い、厳粛かつ暖かみのある式典を大きな混乱もなく無事に終了することができた。

以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

No.	講座の名称	開催回数	参加延人数	講 座 の 主 旨 と 内 容
1	東京湾学講座	11	263	富津岬を中心に東京湾岸の歴史・文化・自然などを幅広く学ぶ講座で、史跡等の館外学習も実施する。
2	長寿楽しみクラブ	6	185	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るために、幅広い知識や教養、健康増進方法などを学ぶ。
3	健康スクール	8	131	気軽にひとりのできる運動を実践するほか、老若男女問わず楽しめる「モルック」「ペタンク」「グラウンドゴルフ」などのスポーツを通じて、日常的に体を動かす楽しさと大切さを学ぶ。
4	わらべうた遊びと共育ち合い教室※	6	38	ミニ講座・わらべうた遊び・散歩などを通して親子の育ちを学びあう（乳幼児と保護者対象・祖父母も参加可能。）。
5	エコパッチワーク教室	8	69	エコ・リメイクの意識を高めるため、古着の布と新しい布を組み合わせて使用するパッチワークを学ぶ。
6	古文書を読む会	5	68	地域に伝わる古文書を教材とし、古文書の種類や読み方、そこからわかる地域の歴史について学ぶ。
7	ペーパーアート折り紙教室	8	68	指先を使うことで脳の活性化を図るとともに、多様な紙を用いて季節の飾りや、ペーパーアートなどの作品を作る。
8	キッズSDGsスクール※	1	13	普段の生活では機会の少ない体験学習を通じて、挑戦する心・自主性・創造性を育むとともにSDGsについて学ぶ。
9	チャレンジクッキング※	4	64	インスタント食品が多い中、肥満にならないよう意識づけすると共に、旬な野菜や果物を使った軽食やおやつを作りながら食の大切さを学ぶ。
10	癒しの香りハーブ教室	4	52	ハーブティーなどのハーブにゆかりのあるものを作り、心のリラックス効果や活力アップ効果のある豊かな香りを感じながら、自然の恵みの活用法を学ぶ。
11	心もすっきりエクササイズ教室	6	99	健やかな身体づくりをテーマに、前半は3B体操、後半は簡単なエクササイズを行うことにより、体力の維持または増進を目指すとともに、心のリフレッシュを図る。
12	睡眠と健康の知恵袋講座	1	11	より良い睡眠をとるための知識・方法から、「夜中に目が覚めてしまう」、「なかなか寝付けない」などの悩み別の解決方法を睡眠環境から考え、学ぶ。
13	ライフ&マネープラン基礎講座	2	22	中堅からベテラン社会人を対象に、それらを培うための、各種制度・将来設計・資産形成・資産運用（NISAなど）の基礎を学ぶ。
14	シニアスマホ教室 ～ 目指せデジタルシニア ～	3	41	スマホの基本的な操作から、インターネットの使い方・注意点、LINEや写真・動画の撮り方、SNSやネットショッピング、セキュリティまでを学び、生活の利便性向上を図る。
	合 計	73	1,124	

ウ 市民会館

1 主な事業と決算見込額

- ・市民会館管理運営費（37,151,415円）
- ・市民会館学級・講座関係費（413,946円）
- ・市民会館文化事業（0円）

2 令和7年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

・市民会館管理運営

施設整備として、自動給水装置交換修繕、出入口床修繕、浄化槽配管修繕などを実施した。

・市民会館学級・講座関係

市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全11の学級・講座（前年度比-1）を開講した。

学級・講座全体の開催回数は69回（前年度比+5回）、参加延人員1,081人（前年度比-128人）であった。

・市民会館文化事業

地域の特色を活かし、創意工夫を凝らした独創的・個性的な地域づくりを行うため、各種団体の代表による実行委員会を組織するため、新たな委員に委嘱を行った。また、令和8年度及び9年度の事業実施に向けて、会議を開催し事業の企画についての検討を行った。

○今後の取組の方向性（改善策等）

・市民会館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者への環境整備に努める。

・公民館学級・講座関係については、前年度に実施した来館者等アンケートの結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に、次年度に向け参加者にアンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。

・市民会館文化事業については、通常隔年で実施しているが、令和8年度は民間事業者との協働事業で無料公開講座として実施し、令和9年度に公演事業を実施する。令和8年度及び9年度の開催に向けて実行委員会を中心に、地域における芸術文化の振興と意識高揚が図られるよう事業の企画調整を行う。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

市民会館は建築後37年を経過し、老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。

主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ったが、子どもを対象にする講座を除き、主たる参加者がシニア層中心の傾向となっており、参加者の年齢層拡大が課題である。

市民会館文化事業については、令和8年度及び9年度の事業実施に向けて実行委員会を開催し、事業の企画についての検討を行い実施日、講演内容などを決定した。

以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

No.	講座の名称	開催回数	参加延人数	講座の主旨と内容
1	歴史探訪講座	11	215	地域の歴史を文化・自然・人物・史跡などから再発見、学習する。
2	シニアのためのスマートフォン講座	3	41	スマートフォンを気軽に利用できるようにし、生活における利便性を拡大する。（シニア向け）
3	コーヒー講座	4	44	体に良いコーヒーの入れ方やお菓子に合うコーヒーの選び方、日常に使えるコーヒーについて楽しく学ぶ。
4	健康増進教室	5	78	健康で生き生きと生活できるすべを学ぶ。（健康な体づくり講座・ハイキング等）
5	和菓子教室	7	116	日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学習する。
6	ディスカバーふつつ	3	33	「ふつつ」の良さ、すごさを再発見するための体験講座。各回15キロ程度歩く。
7	シルバー生きがい学級	5	93	高齢化が進む中、レクリエーションや学習を通して、参加者同士がふれ合い語り合う場をつくることにより、仲間づくりを進める。
8	大人の防災社会科学習会	4	84	市防災専門職員の講義と防災施設の見学・体験学習を通して、災害時の身の守り方や避難方法、災害時に備える体制整備の必要性や具体的な支援の内容について学習する。
9	親子で行く社会科探検！※	5	120	親子で自分達の住む身近にある市内外の歴史や技術を体験、学習し、ワクワク、ドキドキする探検をする。
10	わくわくクッキング教室	3	35	地産地消を生かした様々な料理の作り方などを学ぶ。今回は、旬の食材を使った「家庭でもできる“中華料理”」がテーマで実施。
11	こどもダンス教室※	19	222	リズム感を養い、音楽にあわせて楽しく体を動かしながら、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
	合 計	69	1,081	

外部評価者による評価

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

市立図書館について、蔵書数、貸出冊数ともに順調に増えているとのこと。ブックスタート事業や学校教育課の施策ともリンクし、読書という文化の推進が継続して図られているように感じられ、たいへん素晴らしいと思います。今後も市民文化の礎となるようハード面、ソフト面ともに一層の充実に努めてもらえるとありがたいです。

以前、天羽中学校改築の際に、図書室を市民が利用できるような設計にしていると伺いましたが、その後、そういった利用はされているのでしょうか。

生涯学習バス運営事業について、利用者数も年々増加し、市民の生涯学習活動の活発化に寄与しているとのこと、安全・安心に留意しつつ、事業の更なる進展を願っております。

古墳群や鋸山は、ともに富津市の貴重な財産であると認識しています。今後も古墳の公有地化や整備事業、鋸山の日本遺産「候補地域」としての粘り強い活動の継続に期待します。また、佐貫城址、竹岡砲台跡等々、それ以外の史跡や歴史的遺物についても、歴史好きな人たちへの観光資源となり得る可能性を秘めているものと感じております。観光の魅力増大とともに、富津市の誇りの再認識につなげられるよう期待しています。

ふつつ検定事業では、希望する小学校でふつつ検定出張版を開催し、受検機会拡充を図ったことは、裾野を広げ、富津市への関心を高めていく上で有効な手立てであったと評価します。

施設面では、各公民館・市民会館ともに老朽化により保守・修繕に苦慮されていることが伝わってきました。各公民館・市民会館の距離が広大であることから、安易な廃止・統合は困難かとも思いますが、いずれにせよ近い将来に向けて方向性の検討が必要な課題であるとの思いを持ちました。

各公民館講座では、参加年齢層の拡充について、各公民館・市民会館で「親子で」「子どもの」といった形での講座開設により工夫されている様子が伝わりました。今後も幅広い年齢層へアピールできる内容の講座の充実（例えばスポーツや音楽など）及び小中学校等を通じての広報活動など、ダメ元でも思い切った改革へのチャレンジに期待します。

まず、生涯学習課の取組ですが、生涯学習推進事業では、様々な手段で市民の多様な学習支援の周知を図っているようですが、人材バンク「まちの先生」の登録者が減ってしまっていることは残念です。人材バンクは幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える地域学校協同活動に資する活動でもあることから、近隣市などの情報等を参考にするなど、登録者増に向けて更なる努力をしていただきたいと思います。

生涯学習バス運営事業では、バスの利用者数が増加し、図書館関係事業においても予約システムの利便性からか、来館者数は若干減少しているものの蔵書数の充実や利用冊数の増加など順調に実施されているものと思います。他市には無い富津市独自の特性を生かし、更なる利用促進に向け努めていただきたいと思います。

文化財事業では、令和7年9月18日に内裏塚古墳群として国指定史跡となり、今後各方面からの注目度も上がって来るものと思います。鋸山についても、鋸南町や地域事業者、関係機関と協議し、日本遺産認定に向けて各活動を進めていただき、富津市の観光スポットとしての更なる活用等に生かして頂きたいと思います。

社会体育振興事業では、スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員、各種スポーツ団体等の皆様と連携を図り、各種イベント、大会参加者の増加に向け努力されていることと思います。屋外での開催は天候等に影響されることはやむを得ないこととは思いますが、計画、準備などの苦勞を考えますと関係者の皆様の無念さがうかがえます。

また、昨年（令和6年）、富津市の大きなイベントの一つである千葉県民マラソンが終了となってしまったことは本当に残念でした。新しくイベントを誘致、開催することはかなりハードルが高いこととは思いますが、指定管理者となっているミズノ等のノウハウを活用するなどして、富津市の地域性、地形等を生かしたイベントを考えてみてはいかがでしょうか。

高齢化が進む中、高齢者の健康寿命を延ばすことは大きな課題と考えます。健康づくり課や各種スポーツ団体等と協力し、健康管理や体力増進に向けた取組も進めていただけたらと思います。

次に公民館等の取組についてですが、各館とも建設から長期間が経過し、経年劣化がかなり進行している中、予算確保に努め、施設の改修工事等により利用者の環境整備を図ることは大変な苦勞があると思慮されますが、特に防火設備は、不具合が見つかった場合は速やかな対処をお願いします。

各公民館学級・講座の開催については、館により多少の差はあるものの、新規に取り入れられたものもあり、数多く開催されているようです。今後も市民のニーズに応えられる学級・講座の開催をお願いします。

人口減少や各館の老朽化も進む中、今後の公民館等の方向性についても検討していただければと思います。

今回の評価はBとさせていただきましたが、予算確保等の問題など多くの課題がある中、現状ではBあるいはCと評価せざるを得ない事業があることは確かです。しかし、このような中でもAに値する事業も多くあり、今後も各担当者の創意工夫を凝らした成果向上に期待します。

